

HiR ニュースレター 第8号

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

February, 2012

広島大学の学術研究成果を発信する「広島大学学術情報リポジトリ」と、オープンアクセスに関するニュースをお届けします。

第8号 コンテンツ

- 1990-2000年の博士論文を登録中です
- シリーズ リポジトリFAQ 第4回「博士論文の登録」
- 広島大学パテントデー開催
- オープン・アクセス・ジャーナルについて

1991-2000年度の博士論文を登録中です



本学研究成果公開のプラットフォームである「広島大学学術情報リポジトリ」では、学位論文（博士）も公開しています。

本学は、平成22年度における国立国会図書館での学位論文（博士）のデジタル化実施に当たり、学位論文の公表の意義及び学術情報流通の促進の観点から、デジタル化された学位論文のインターネット公開等に係る著作権処理を同館と協力して行いました。対象は、平成3（1991）年度から平成12（2000）年度までに本学から同館に送付した学位論文です（平成13年4月以降送付した学位論文のうち、平成13年3月31日以前に学位授与したのも一部含まれます）。

同館から本学へのデータ引き渡しは二回に分けて行われ、現在、第一回分（約180件）がリポジトリに登録されました。許諾いただいた著者の方々に御礼申し上げます。第二回目目のデータ引き渡しは平成24年3月予定のため、4月以降も継続して登録を行います。詳細は、下記の過去のお知らせをご覧ください。

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/news/cms/list/33.html>

シリーズ・リポジトリFAQ 第4回 博士論文の登録



リポジトリでは、雑誌論文・学内紀要・報告書・学位論文など、多様な種類の学術成果を公開しています。

図書館では、これらのコンテンツ数を拡充し、より多くの方に役立てていただくため、先生方に論文等のご提供をお願いしています。ここではリポジトリ業務について寄せられたご質問とその答えを掲載いたします。

Q: 博士論文を学術雑誌に投稿する予定です。先にリポジトリに登録すると、公表済とみなされますか？



A: 著作権法では「公表」とは、相当程度の部数の複製物が配布（発行）されるか、公衆送信つまりインターネットによって公衆に提示された場合を公表と定義付けています。（中略）一般的には、それら（博士論文）をリポジトリに登録して、一般に見られる状態になっていれば公表であることには間違いありません。

（以上は、黒澤節男氏著「機関リポジトリと著作権Q&A」
<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00023065> p.21-22より抜粋）

したがって、[「学位論文（博士）登録許諾書」](#)の提出時には、学術雑誌に投稿予定であることを記入して下さい。また、受理された場合は、その旨ご連絡下さい。雑誌発行後にリポジトリで公開します。

なお、「学位論文（博士）登録許諾書」には、特許等やリポジトリでの公開日について、指導教員の署名・捺印が必要です。

[「HiRニュースレター」第7号](#)もご覧ください。

広島大学パテントデー開催



創造的人材育成と社会貢献の推進、および広島大学の知的財産の向上をはかるため、広島大学産学・地域連携センター知的財産部門主催により継続的に開催されています。節目の第5回となった今回は、第49回広島大学講演会として、サタケメモリアルホールで盛大に開催され、学内外から約400名の参加がありました。

尾池和夫国際高等研究所所長(前京都大学総長)の特別講演のほか、外国及び日本特許証の授与式が行われました。閉会後は、学生会館にて知的財産部門によるパテント相談会及び図書館のリポジトリ相談会も開催されました。

平成23年10月21日(金) 広島大学サタケメモリアルホール
プログラム

【開会挨拶】岡本哲治(広島大学理事・副学長(社会連携・広報・情報担当))

【特別講演】「東日本の巨大地震に学ぶ」尾池和夫氏
(財)国際高等研究所所長, 前京都大学総長)

【知財活動報告】外国及び日本特許証授与

【パテント相談会】【リポジトリ相談会】
(会場: 広島大学学生会館2階レセプションホール)



尾池和夫氏



相談会の様子

産学・地域連携センターからの開催報告は右記をご覧ください。 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/news/show/id/12248>

オープン・アクセス・ジャーナルについて



オープン・アクセスとは、学術研究活動の成果をインターネットを通じて無料で公開し、世界中の人々が対価なくこれを楽しむことができるようにすることです。オープン・アクセスを実現する方法は二つあります。一つは、機関リポジトリ等における著者自身の論文の公開(セルフ・アーカイビング)です。もう一つは、オープン・アクセス・ジャーナル(Open Access Journal)での公開です。

オープン・アクセス・ジャーナルとは、購読料を取らず、誰でも無料で閲覧することができる雑誌です。しかし出版のための費用はかかるので、これは通常投稿料・掲載料の形でまかなうことになります。

読者が購読料を支払う従来型の雑誌でも、著者が投稿料・掲載料を支払ってオープン・アクセスにするという選択ができる場合があります。

近年、『PLoS ONE』など、年間発行論文数が数千にもなる「オープン・アクセス・メガ・ジャーナル」と呼ばれる巨大なオープン・アクセス・ジャーナルも登場し、今後の学術コミュニケーションや大学図書館にどのような影響を与えるのか注目されています。

2月末には、『PLoS ONE』誌出版代表の Peter Binfield 氏の講演を含むセミナーが開催されます。詳細は右記URLをご覧ください。 <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2011/20120229.html>

2月末には、『PLoS ONE』誌出版代表の Peter Binfield 氏の講演を含むセミナーが開催されます。詳細は右記URLをご覧ください。 <http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2011/20120229.html>

参考文献

- ・Budapest Open Access Initiative. 2002, <http://www.soros.org/openaccess/read>
- ・時実象一. 電子ジャーナルのオープンアクセスをめぐる議論と対立論文. 情報社会試論, 2005, vol. 10 p.80-92

“著者負担”

(従来の学術雑誌出版)



(オープンアクセス出版)



(杉田茂樹. オープンアクセスジャーナルの動向.

DRF機関リポジトリ中堅担当者研修スライド, 2011.10.21)